

議事要旨

件名	第11回 信濃川やすらぎ堤利用調整協議会	
日時	平成31年3月6日(水)午前10時00分から午後12時00分	
場所	市役所分館 1階 1-101 会議室	
出席者	委員 岩佐 明彦 委員 中村 美香 委員 夏井 陽三 委員 高松 智子 委員 高橋 邦夫 委員 なぐも友美 委員 井上 達也 委員 菊池 弘隆 委員 目黒 嗣樹 委員 (欠席 渡辺東一 委員)	事務局 新潟市まちづくり推進課  2018年度施設使用契約者 株式会社スノーピーク  報道機関 有 傍聴者 有

**開 会**

事務局より本協議会の概要、目的等を説明。

**1.ミズベリング信濃川やすらぎ堤 2019 にむけて**

**説明者:まちづくり推進課**

事務局:(配布資料1-1.1-2に沿って事業説明)

- ・ 前回協議会でいただいた意見について、対応方針と具体策を検討
- ・ 具体的には施設使用者との契約書、特記仕様書等に対応する部分、事業計画のなかで反映させる部分があるので、これらを踏まえた上でご意見をいただきたい。

中村:次の事業計画の説明を受けた上で、委員の皆様よりご意見をいただきたい。

**2.ミズベリング信濃川やすらぎ堤2019事業計画について**

**説明者:(株)スノーピーク**

(株)スノーピーク(以降、SP) :(配布資料2に沿って事業説明)

- ・ モバイルハウスを使ってやりたいことができていない。設置は検討中。
- ・ コンセプトは水辺アウトドアラウンジ「やすらぎ堤」
- ・ SPのネットワークだけでなく様々なネットワークの活用を盛り込む。

- ・ 事業コンセプトについて、スノーピーク自社のみでは活用できないネットワークを活用
- ・ 外部からの参加をもっと受け入れる方向で検討している。
- ・ イベントスペースの有効活用、イベントの告知など。
- ・ 広報媒体は様々なものを総合的に活用。SNSは引き続き継続して利用。
- ・ 右岸はアウトドアゾーン、左岸はヘルスゾーンというゾーンは継続
- ・ 手ぶらキャンプの拠点
- ・ ホワイトカラーで統一。自社テントを活用。
- ・ 右岸にイベントスペースを設置。イベント告知などをしっかりと行う。
- ・ 左岸はランナーが多いのでのヘルスゾーンというコンセプトを継続
- ・ ただ左岸は飲食では厳しいところがあるので、健康促進に強い事業者と連携。
- ・ 開催予定のイベントは出店者などの外部のネットワークから生まれるものも積極的に実施。
- ・ テントやイスなどの設えは昨年度と同様のものを使用
- ・ 新商品で焚火ができるタープがあるのでそうしたものを使用する予定
- ・ 出店者の要望があれば弊社のものを貸与可能とする。
- ・ ゾーニングについて、利用者目線で幅広い楽しみ方ができるように。
- ・ 出店者目線で差別化が図れるように。
- ・ ゾーンは昨年度の店舗数を想定して計画
- ・ 右岸下流は昨年度キッチンカーでは利益が上がりず厳しかった。有効活用に向けてイベントやパートナーなどのチャレンジを行う。
- ・ 左岸も場所の特性上、何店舗も出せるところではないので、出店する事業者と協力してより活用される方法を検討したい。
- ・ 期間については6～9月の三か月。10月は厳しいという意見が出てきた。
- ・ 営業時間について、昨年度同様だが、昼も営業を行えるかは出店者との相談。
- ・ 出店者会についてゾーンリーダー制を導入
- ・ 2017・2018年度は各店舗で調整が難しく、管理がうまく回らなかった。
- ・ 2019はゾーンリーダーを設定して、ゾーンの意見をまとめてもらう。
- ・ SNSは継続して実施。現地にもQRコードを設置
- ・ チラシについては出店者情報のものだけでなく、遠方向けの内容のチラシで実践して効果を測定してみる。
- ・ メディアについては出店者がもっているネットワークがあるのでそうしたものを活用。
- ・ 連絡体制について、引き続きLINEグループで日々の連絡等を行う。

**【やすらぎ堤の芝生について、河川管理者より補足】**

目黒:管理者側からのお願いという側面もあるが、斜面の芝がやられているところがある。

管理者側として解決策があるわけではないのだが、この取り組みのベースとして、芝生による空間の心地良さは重要な役割を担っていると思う。これだけの人が一気にやすらぎ堤を利用してくれることはすごいことである反面、そうした場所での、芝生の管理方法等については、こちらでも知見を持ち合わせていない。具体的な解決策を明示できるわけではないが、利用の際には気にかけてほしい。

今後の維持管理方法を検討するため、一部で立ち入りの禁止をするなどの試験も予定して

いる。そうした技術的な知見などを積み上げて、持続可能に使うという観点も重要だと思う。これまでにならなっていたところではあるが、顕在化してきたところがあるので情報提供させていただいた。

中村: 評価という視点と、事業をよりよくするという視点もあり、多様な見方が必要となるが意見を頂戴したい。

高橋: 今ほどの目黒所長の意見も踏まえたくて、ゾーニングの再考の余地はまだあるか？

S P: 先ほどの視点は非常に重要であるが、出店者との調整が必要となってくるので、中長期的な課題とさせてほしい

高橋: SPのミッションにかかわる問題でもあるので、対応は喫緊でも必要であると思う。テントや客席を多少なり動かすなどの検討が必要ではないだろうか？

資料1-1についてイベント評価について実施報告で対応については1件ごとに行うのか？

事務局: 原則1件ごとにもらうつもりでいる。現在もイベントについては1件ごとに申請を行っている。

高橋: 外部から募った場合には申請者は誰となるか？

事務局: 検討中であるが、現在、イベントの申請者は新潟市となっている。それについては今後の検討課題でもある。ただ、イベントについてはやりっぱなしでなく最低限の報告はいただきたいと思っている。また、報告主体がSPなのか実施者なのかも今後検討が必要である。一方で、民間のアイデア、スピード感といったものもあるので、その良さをなくさないように、行政として把握すべき範囲と調整する必要もあるとは考えている。

高橋: 広報や現場の責任についても検討する必要があると思う。

岩佐: ルールや効果測定的重要性は承知しているが、あまりにも固めすぎることで、参加のハードルを上げている側面が出てくると良くないと思う。学生の受け入れなどについては以前から言及させていただいているが、ここではそうしたことに慣れたプロでしかできない、という空気にはなっていない。例えば、天気が良いから小学校が遠足をしたくなったときには事前に申請が必要なのか？

事務局: 申請の要否については、現在は自由使用に該当するかどうかを判断基準としている。

岩佐: 気が向いたときにふらっと立ち寄れるようなところが水辺の良さだと思うので、そうしたものが損なわれることがないようにしてほしい。

事務局: 事務局としては、現在のところある程度、手法が決まったイベントについては類型化して効率的に申請等の処理を行えるように検討している。

高橋: 岩佐委員の質問にもつながるところがあるが、スライド内の右岸の区画サイトにて「やすらぎ堤の価値を高められる出店者を誘致」と限定してしまうと、かえって参加の間口を狭めることにつながらないかという懸念がある。

岩佐: 取得できるデータについて、前回でも言及したところがあるが、エアレジについては、利用者の年代やどれくらい滞留していたかなど、様々な情報取得ができると思う。そうしたデータを取得できるとより効果的な事業のあり方を検討できると思うが、それは可能か？

S P: 個人情報などもあるが、出店者に了解が得られれば一定のデータは取得できると思う。

井上: 広報についてということで遠方向けというところがあるが、インバウンドのような外国人観光客への対応も意識しているか？また、出店についてもそうした面を意識しているところはあるか？

S P: チラシ・ポスター以外ではまだ検討できていない。

井上:多言語化までは対応できないか?

S P:紙媒体という特性上、情報を盛り込みすぎではよくない側面もある。図やビジュアル等の要素で対応できるところもあるかと思うので、検討していきたい。

岩佐:今年は開港150周年というところもあるので、そうしたロゴを利用するなど相乗りできるのではないだろうか?

事務局:関係部署への申請を行えば可能。

岩佐:昨日もミズベリングの会議が東京であって、こうした盛り上がりはこの事業にとっても、追い風になると思うので上手く活用できるとよい。

高橋:商工会議所はクルーズ船の顧客に英語での資料を渡したりしているの、それぐらいはあると良いのではないだろうか。

なぐも:遠方向けのチラシというのは非常に良いと思う。観光のお客さんは夜に何をしたいかわからないので、ホテル等に配布というのは効果的だと思う。

焚火できるタープということで説明があったが、焚火についてはヨガやカヌー体験よりもハードルが低く、ちょっとした興味で参加しやすいと思う。

いろんな人とのタイアップについては、わくわくしたが、できないことをはじめから盛り込みすぎると、最終的には評価できないところもある。できることからコツコツと積み上げていってほしいと思う。

イベントスペースについてはどのように料金を取るのか?

S P:2018年度はイベント出店について、1日5万円とっていた。今年は出店者から意見を聞いて、検討したい。

なぐも:キッチンカーも1店舗だけでなく、たくさんあったほうが雰囲気が良いと思う。イベント出店については出店料という形で徴集するのか?

S P:出店料である。

高松:タープについて2017まではホワイトカラーだったのに、2018年度にブラウンのものがあつた。景観という点では、色彩が統一されていないのは良くないと思う。今年度の事業計画では「ホワイトカラーで統一」となっているが、どのように計画しているか?

また、関連するイベントの一つになると思うが、毎年、萬代橋誕生祭が開催されており、私自身そちらにボランティアで関与している。こちらのミズベリングは利益を上げるという側面もあるので、一緒にはできないが、ボランティアのように参加のハードルを下げるところでにぎわいを創出することも検討してはどうか?

S P:テントの色については現状では製品ラインナップで白がない状況。可能な限り白で統一しているが、持ち合わせていない製品についてはすぐに対応できていない。

高松:スノーピークはこれまで山・森というイメージでやられていたと思うが、やはり水辺では白が合うと思う。そういうものが普及してくれば、需要もでてくるのではないだろうか?

夏井:夏だけのイメージからどう脱却していくか。若者ターゲットからファミリー層をどう対応していくかというところについて伺いたい。

S P:キャンプの体験などについては秋口にチャレンジを検討したい。ただ冬期については厳しいところがある。ファミリー層に対しては、正しくキャンプがファミリーをターゲットとしており、親子で体験できるものであるの、これができることで自然とファミリーが増えると思う。

中村:遊べる要素や夏休みの自由研究にできるような要素があるとよい。南池袋公園などでは芝の

状態などをSNSで発信して利用者に理解を求めていたりしている。こちらではごみ拾いに市民参加を募るなど、やすらぎ堤スタイルの構築につなげてほしい。

菊池:小売り化が進んで、若者が行く場所になってきていて、私自身も入りづらく感じている。そうしたところは対応していくという方針でよいのか？

S P:対応を考えたい。

中村:3年目で定着・着地という側面もある。本格運用あるいは次に引き渡すという視点をもってほしい。

目黒:管理者目線でモバイルハウスは企画中ということだが、特記仕様書で消されたアウトドアオフィスはやらないということか？ やらない段階で消してしまうのもいかなものかと思う。

イベントスペースの使い方について、お金のとる、とらないなどの線引きもあるが、公共性やチャレンジなどの使い方の幅、多様性もあるとよいと思う。

また回遊性について、萬代橋側でイベントスペースを検討中ということであるが、今の段階で何かしら検討しているものがあれば伺えるか？

S P:フリーマーケット、マルシェなどは考えられる。上流側ではできない、下流側ならではのものを検討したいが、具体的なプランはまだない。

高松:萬代橋を往来する人がちよつと立ち寄れるようなものがあるとよい。萬代橋誕生祭は昔は萬代橋のたもとで行っていて、そうした役割を担っていたが、現在は萬代テラスにいつてしまった。昨年度はそうした役割を期待していたところがある。

高橋:事業の目的で拠点化、地域活性化という話がある。決して簡単ではないと思うが、周辺の古町・万代まで誘導できるような仕掛けを、なにか一つでも実践できないだろうか？ まちあるきしている人の途中の休憩スポットにするなど、周辺の町内会と連携するなどの取り組みなどがあるとそういうところにつながっていくのではないだろうか。

高松:チラシ・ポスター等にQRコードをいれて、周辺の情報へ誘導するなど連携できないだろうか。

中村:海外では会計時に次にどこに行くかという情報をアンケートでとっているところもある。

岩佐:景観への配慮について、丸々消してよいのか？ 重要な要素であると思うが。

事務局:当然ながら景観への配慮も重要であるが、前回の評価でアドバイザー会議の活用だけをもって評価するような書き方になっていたため改めた。これについては皆様より意見を頂戴したい。

岩佐:景観アドバイザー制度を利用することは義務ではないのか？

事務局:一定規模以上の建築行為の届出が義務付けられており、それに対して景観アドバイザーが意見を付する形となるので、ミズベリングの取組み自体は届出の対象でなくアドバイザー会議への義務付けまでは至ってない。

岩佐:4~5年前にまちづくり推進課と一緒に水辺の使い方のガイドラインのようなものをつくった気がするので、そうしたものも参考にしてほしい。

井上:芝生の現状復帰については言及しなくてよいのか？ 契約書で触れているということか？

事務局:特記仕様書の元となる契約書で現状復帰は原因者負担として言及している。

S P:ご意見ありがとうございました。体制の変更があり、新しい担当者となったことを報告させていただきたい。

( 新任担当者 自己紹介 )

### **3.今後のスケジュールについて 説明者:新潟市まちづくり推進課**

(事務局よりスケジュールを説明)

- ・昨年度のスケジュールが詰まっており、現場準備や手続きなどで関係者にご迷惑をおかけしたところもあるので、スケジュールを前倒して契約を行う。
- ・年度内に施設使用契約を締結し、6月30日より営業開始を予定している。

岩佐: 万代テラスなどもあるがそれとの関係性はあるか?

事務局: 川と港で管理者が異なっているが、夏にはサンセットカフェもやっているの、そうしたもので連携して賑わいを創出したいと考えている。

中村: 市としても積極的に連携を図れるように取り組んでほしい。

### **4.意見交換**

( な し )

### **5.その他 説明者:新潟市まちづくり推進課**

事務局: 協議会委員の任期について平成29年4月1日に就任いただいて、2年経過しており、改選の時期を迎えている。事務局としてはみなさんに継続してほしいと考えている。個別の事情等があれば事務局と協議いただき、平成31年4月の改選を迎えたいと考えている。

### **閉 会**

以上